

竹取物語抄・かぐや姫の生ひ立ち

土橋靖子

Yasuko Tsuchihashi

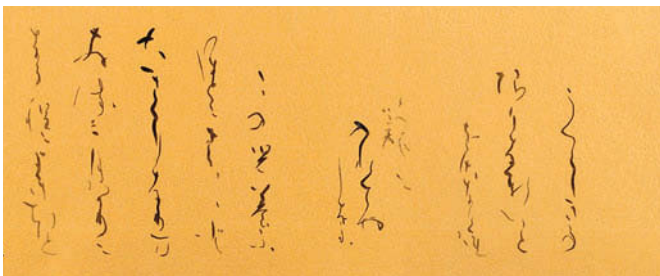
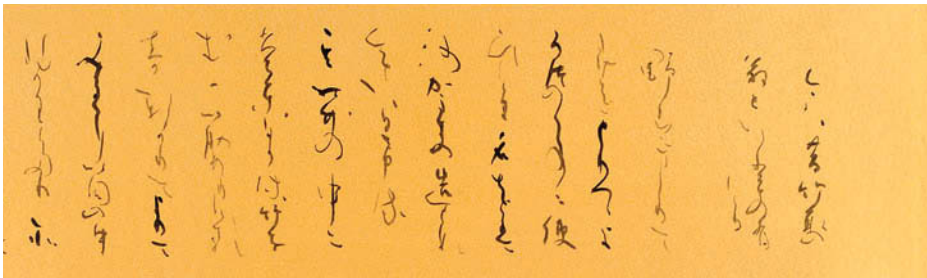
本作は日本古典文学の中でも名高い「竹取物語」を題材に、その冒頭部分、かぐや姫の誕生の箇所を、いわゆる書簡風に書いた作品である。

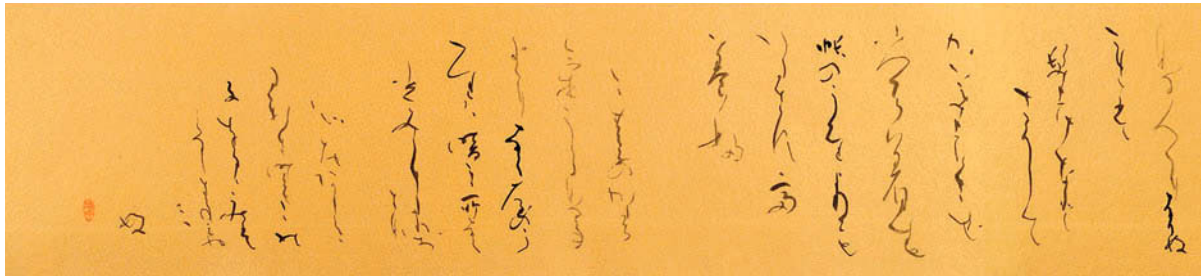
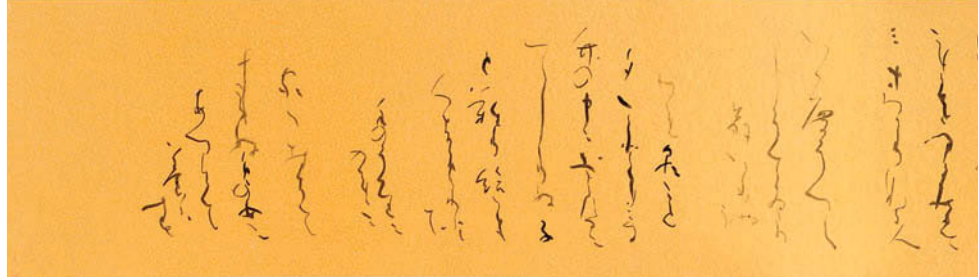
古典文学の長文は、当然のことながら漢字と仮名で縷々記されている。それを、巻紙に書くイメージで、漢字の使用も段落も可能な限り原文の内容に即して表現するよう試みた。日頃より、漢字仮名交じり書について、研究、試作しているが、可読性の有無は別として、手紙文は、日本語を素直に書き連ねた、漢字仮名交じりの原型と考えている。

また、二段形式としたが、それぞれの段が相呼応し、変化と統一感が出るよう、全体の景色も工夫した。

紙は、かぐや姫の誕生の瞬間になぞらえ、金色を選んだ。

全体としては、細部の構成に先ずは拘り、作りこんだものの、最後は刻意を超えた卒意性を生かすよう努め、心手相応じ、自然な呼





(21×136cm×2)

吸で書きたいと願った。

【釈文】

八 毛 介利 二万利 多

今は昔 竹取の翁といふもの有けり 野山にまじりてたけを

利 徒 二 介里 盤 沙駕支 那牟

とりつよろづの事に使ひけり 名をばさかきの造となむ

日希流 能 二 裳東日可流 利介類 新

いひける 其の竹の中にもとひかる竹なむ一筋ありける 奇し

可利 利 耳 悲可里多利 所連 礼盤 八可

がりてよりてみるに筒の中ひかりたりそれを見れば三寸ばかり

利那 度 多利

りなる人いとうつくしうてゐたり (以下略)